

## ノ ー ト

## 徳島大学医学部における東洋医学教育について

竹川佳宏<sup>\*</sup>, 森 健一<sup>\*\*</sup>, 水口和生<sup>\*</sup>, 清水 寛<sup>\*\*</sup><sup>\*</sup>徳島大学医学部保健学科放射線技術科学専攻診療放射線技術学講座, <sup>\*\*</sup>国立療養所徳島病院,<sup>+</sup>徳島大学医学部附属病院, <sup>++</sup>東洋病院

(平成15年3月7日受付)

(平成15年3月13日受理)

平成13年3月, 医学・歯学教育のあり方に関する調査研究協力者会議が提言した「医学教育モデル・コア・カリキュラム」を受けて, 徳島大学医学部では平成14年度より, 「東洋医学入門」を開講し, 4名(うち非常勤講師2名)のスタッフで, 徳島大学独自のカリキュラムを試行した。その結果, 学生たちには新鮮な感動をもって受け入れられた。今後の課題としては, 理解度の向上をめざす必要性を認めた。次年度以降, カリキュラムの改善に尽力を尽くすと共に, 意欲のある学生には東洋医学を学ぶ機会を提供することによって, 全人的視野を養い, 患者のための最良の医療を選択出来る医師の育成と, 東洋医学の将来を担う人材育成に務めなければならないことを痛感した。

## はじめに

徳島大学医学部では, 既に東洋医学の教育は講座のカリキュラムに組み込んだ形で, 平成4年度より放射線医学1コマ, 平成12年度より産婦人科学2コマでスタートしてきた。

平成13年3月, 医学・歯学教育のあり方に関する調査研究協力者会議が「21世紀における医学・歯学教育の改善方策について」を報告として取り纏めた中で, 「医学教育モデル・コア・カリキュラム」では, 学習領域ごとに医師・歯科医師を目指す学生が, 何をどこまで学べばよいかという目標が明示された。この中で, 「基本的診療知識」の「薬物治療の基本原則」の到達目標として, 「和漢薬を概説できる」が掲げられ, 医学部卒前教育における東洋医学のあり方に関して, 全大学において前向きに取り組む気運が急速に高まってきた。徳島大学医学部においても, これをうけて平成14年度より, 「東洋医

学入門」を開講した。

## 1. 「東洋医学入門」の講義内容

徳島大学医学部医学科では, 平成14年度医学科第1年次より医学入門が開設された。これは, 学生に多様な講義・演習・実習等を用意して新しく始める少人数制の科目であり, そのなかの一つに「東洋医学入門」が組み込まれた。選択科目として, 後期に120分16コマ(実際には「オリエンテーション」及び「看護体験実習・救急体験」で5コマ減)が開設された。講師陣は, 日本東洋医学会副会長清水寛(日本東洋医学会指導医)を中心に, 森健一(日本東洋医学会指導医), 水口和生(徳島大学附属病院薬剤部長)と竹川佳宏(日本東洋医学会指導医)で行われた。当初は20名位の受講生を予定したが, 班別の結果5名と, 少人数でスタートしたために, 結果的には講義及び実習等理想的な環境で行うことができた。

講義の内容は, 対象が1年生でまだ一般教養科目を履修半ばであり, 医学入門の時期でもあるために, 東洋医学とはどのような医学かを分りやすく解説することに重点をおいた。

授業のねらいは, 21世紀の医療として注目されている東洋医学の基礎を理解することで,

- 1) 東洋医学とは
- 2) 東洋医学の診断法
- 3) 薬物学
- 4) 鍼・灸治療

を正しく理解することとした。

授業計画は,

## I. 東洋医学総論

1. 現代医療と東洋医学

## 2. 東洋医学の歴史（中国と日本）

## 3. 陰陽五行説

## II. 人体の生理

## 1. 五臓六腑の生理と病理

## 2. 気・血・津液の生理と病理

## III. 病因

## 1. 六淫・七情

## 2. 水湿・痰飲・お血

## IV. 診察方法

## 1. 四診

## 2. 舌診, 脈診, 腹診

## V. 「証」

## 1. 「証」について

## VI. 薬物学

## 1. 薬物の効能

## 2. 薬物の応用

## VII. 方剤

## 1. 方剤の組み合わせ基本原則

## 2. 代表方剤

## VIII. 鍼灸

## 1. 鍼針の基礎知識

## 2. 鍼灸の臨床

以上の内容を、竹川が上記 I ~ II, 森が III ~ V, 水口が VI ~ VII, 清水が VIII を担当して、ビデオ, スライド, プリント及び参考書等を用いて、学生に分りやすく教授した。

## 2. 学生の反応

学生たちには新鮮な感動をもって受け入れられたようである。西洋医学を勉強する前でもあり、その意味では東洋医学を素直にとらえる事ができたようである。

今回、講義前と講義終了時に学生へのアンケートを実施した。その結果は学生の東洋医学への感心の高さをみることができた。

学生たちの代表的な意見を例示する。

## 講義前

## 1) 東洋医学（漢方）に興味がありますか。

（答）全員がある。

理由としては、

a) 役立ちそうだから。

b) 未知の部分が多い。

c) 西洋医学以外も知りたい。

d) 西洋医学にも限界があるから。

e) 自分で服用したことがある。

## 2) 徳島大学医学部において東洋医学に関する講義は必要だと思いますか。

（答）全員がある。

理由としては、

a) 情報として知っておく必要があるから。

b) 将来役立ちそうだから。

c) 面白そうだから。

d) 地域で処方を見たい患者もいるから。

## 3) 大学において東洋医学の研究は必要でしょうか。

（答）八割が必要。

## 4) 将来、漢方薬を用いての医療をしたいと思いませんか。

（答）六割が思う。

## 講義終了後

## 1) 東洋医学（漢方）に関心がありますか。

（答）全員が非常にある。

## 2) 東洋医学に関する貴方の理解は次のどれですか。

（答）全員が少し理解できた。

## 3) 東洋医学の講義をうけて、貴方は満足していますか。

（答）八割が満足している。

## 4) 教育は有意義でしたか。

（答）六割が大変意義がある。

残りの四割がある程度意義がある。

## 5) 医学教育に東洋医学は必要と思いませんか。

（答）全員が非常に思う。

医学科第1年次の教育ということで、医学教育をまだ受けていないために、東洋医学への関心度の高いわりに理解度は低いと思われた。再度5~6年次に「選択必修」として、学ぶ意欲のある学生に効率的な教育が必要であることを痛感した。

## 3. 他大学における東洋医学教育

現在、医学部・医科大学の総数は80大学あり、そこでの東洋医学教育の実施状況は平成10年度に24大学（30%）、11年度は38大学（47.5%）、12年度は52大学（65%）、13年度は57大学（71.3%）、14年度は68大学（85%）と急速な普及に眼を見張るものがある。これは医療現場の原点である医学教育においても、漢方が不可欠であるという認識に達したからにほかならない。平成15年度からは

75大学（93.7%）が予定されている。

他方、これらの大学においては何らかの東洋医学教育が実施されてはいるが、その内容はまちまちであり、気血水等の東洋医学的な病態論まで教えているのは、そのうちの数校にすぎないと思われる。これは各大学での教員の不足と、教育のスタンダードがないためと考えられる。

今後は、高い到達目標をもった独自のカリキュラムを作成して、診療に必要な和漢薬の基本を教授し、全人的視野を養い、患者のための最良の医療を選択出来る医師の育成と、東洋医学の将来を担う人材育成に務めなければ

ならない。

#### 4. 徳島における東洋医学の卒後教育

平成13年～14年に徳島で行われた卒後教育について纏めてみた（表1）。平成13年には16回、平成14年には12回のセミナーや講演会が開催された。いずれも初心者から中級者を対象とした、明日の診療に役立つ内容のもので、参加者に好評であった。これ以外に、日本東洋医学会として、年2回（夏季、冬季）の徳島県部会が徳島大学蔵本キャンパス内で開催され、学会員を問わず聴衆で

表1 徳島県内における講演会（平成13～14年）

年 月	タイトル	講師	所 属	テ ー マ
13 2	日本東洋医学会徳島県部会	森 健一	国立療養所東徳島病院 内科部長	漢方治療雑感
2	日本東洋医学会徳島県部会	山田 喜吉	山田鍼灸院 院長	鍼灸の臨床
2	徳島県医師会健康セミナー	竹川 佳宏	徳島大学医学部 教授	21世紀のガン治療と漢方
3	小さな東洋医学勉強会	高橋 秀夫	小松島病院 内科医長	診断法についての解説
4	徳島漢方集中セミナー	峠 尚志	日本東洋医学会関西支部 事務局長	「診断学入門」「日常診療の実際」「腹診の実習」
5	徳島県医師会講演会	丁 宗鉄	東京大学医学部生体防御機能学講座 助教授	東洋医学の新しい展開
5	徳島県薬草協会定例総会	竹川 佳宏	徳島大学医学部 教授	老人病と漢方
5	徳島漢方セミナー	原 敬二郎	恵光会原病院 院長	高齢者と漢方（呼吸器疾患を中心に）
6	小さな東洋医学勉強会	高橋 秀夫	小松島病院 内科医長	診断法についての解説
7	西徳島漢方研究会	清水 寛	東洋病院 理事長	証の見方と漢方薬の副作用について
7	日本東洋医学会徳島県部会	竹川 佳宏	徳島大学医学部 教授	老人病と補剤（骨粗鬆症）
7	日本東洋医学会徳島県部会	清水 寛	東洋病院 理事長	介護保険と東洋医学
7	阿波漢方講座	広瀬 滋之	広瀬クリニック 院長	漢方治療の進め方 明日からできる頻用処方の使い方
8	阿波漢方講座	久我 正明	久我耳鼻咽喉科 院長	日常診療における漢方治療の応用 - アレルギー疾患を中心に -
9	徳島漢方集中セミナー	渡邊 幸一	渡邊内科クリニック 院長	「診断学入門」「日常診療の実際」「腹診の実習」
10	阿波漢方講座	鍋谷 欣市	昌平クリニック 院長	日常診療における漢方処方の使い方 - 消化器疾患を中心に -
10	徳島漢方セミナー	原 敬二郎	恵光会原病院 院長	風邪と漢方
11	徳島漢方入門セミナー	溝部 宏毅	みぞべ内科循環器科医院 副院長	漢方の基礎および漢方エキス製剤の運用法
11	小さな東洋医学勉強会	松浦 匡	㈱ツムラ 教育推進部	漢方はなぜ効くか - 生薬からの検討 -
12	徳島漢方セミナー	原 敬二郎	恵光会原病院 院長	アレルギーと漢方
14 1	第2回西徳島漢方研究会	竹川 佳宏	徳島大学医学部 教授	老人疾患と漢方
2	日本東洋医学会徳島県部会	森 健一	国立療養所東徳島病院 内科部長	漢方治療雑感
2	日本東洋医学会徳島県部会	山田 喜吉	山田鍼灸院 院長	鍼灸の臨床（疼痛疾患）
2	徳島漢方入門セミナー	亀井 真樹	佐々木公園診療所 所長	「診断学入門」「日常診療の実際」「腹診の実習」
2	徳島漢方セミナー	原 敬二郎	恵光会原病院 院長	痛みと漢方
4	徳島漢方セミナー	原 敬二郎	恵光会原病院 院長	水毒の病態とその治療
5	徳島漢方集中セミナー	大西 健司	大手前クリニック大西 院長	「診断学入門」「日常診療の実際」「腹診の実習」
6	徳島漢方セミナー	原 敬二郎	恵光会原病院 院長	長寿と漢方（気を補い血を補う）
7	日本東洋医学会徳島県部会	森 健一	国立療養所東徳島病院 内科部長	めまいの漢方治療
7	日本東洋医学会徳島県部会	村上光太郎	徳島大学薬学部 助手	ネパールの薬草
7	阿波漢方講座	渡邊 一幹	渡邊医院 院長	消化管疾患・老人生疾患の漢方治療 明日から使える漢方頻用処方の使い方
7	第3回西徳島漢方研究会	竹川 佳宏	徳島大学医学部 教授	老人疾患と漢方 - 腎と膀胱 -
8	小さな東洋医学勉強会	松田 和也	松田内科医院 院長	漢方の診断 - 陰陽虚実について -
9	徳島漢方集中セミナー	渡邊 幸一	渡邊内科クリニック 院長	「簡単処方6処方」「病名投与から一歩踏み込んで」ほか
10	小さな東洋医学勉強会	松田 和也	松田内科医院 院長	漢方の診断 - 気血水について -
12	阿波漢方講座	新井 信	東京女子医科大学附属東洋医学研究所 助手	実践の漢方治療 - 気血水からのアプローチ

きるようになっている。また日本東洋医学会の専門医修得のための上級者むけの教育・実習は、医学部に近い東洋病院において2名の指導医のもとに研修できる体制が既に整っている。

#### おわりに

このたび医学教育改革のコア・カリキュラムの中に漢方（東洋）医学が取り入れられ、西洋医学の考え方と異なった体系から、21世紀の医療を見直すための一つの手

段ととらえられたことは、我々の長年の夢でもあり、実に等を得たこととして全面的に協力を惜しまないものである。

徳島大学医学部における東洋医学開講の試みを紹介した。学生たちには新鮮な感動をもって受け入れられた。今後の課題として理解度の向上をめざす必要性があるということを示す結果がえられた。今後も東洋医学カリキュラムの改善に尽力を尽くし、意欲のある学生に東洋医学を学ぶ機会を提供して行く決意である。



張仲景【ちょう ちゅうけい】 中国後漢時代の名医（推定 150～219年）。著作の『傷寒雜病論』は、後に『傷寒論』と『金匱要略』の2部に分けられた。

## *Education of Oriental medicine at The University of Tokushima School of Medicine*

*Yoshihiro Takegawa<sup>\*</sup>, Kenichi Mori<sup>\*\*</sup>, Kazuo Minakuchi<sup>+</sup> and Hiroshi Shimizu<sup>++</sup>*

*<sup>\*</sup> Department of Radiologic Technology, School of Health Sciences, The University of Tokushima, Tokushima, Japan ; <sup>\*\*</sup> Department of Internal Medicine, National Higashi Tokushima Hospital, Tokushima, Japan ; <sup>+</sup> Division of Pharmacy, Tokushima University Hospital, Tokushima, Japan ; and <sup>++</sup> Department of Kampo Medicine, Toyo Hospital, Tokushima, Japan*

### SUMMARY

The Oriental medicine is increasingly used in medical treatment in conjunction with the Western medical health care system in our country. As Oriental medicine and Western medicine are based on different scientific systems, there is no educational curriculum of Oriental medicine in Western medical school education.

This is a report on pre- or post-graduation educational programs of traditional Oriental medicine in The University of Tokushima in the past and the present.

In order to examine the attitudes of medical students toward Oriental medicine before and after lecture course, self-administered questionnaires were given the medical students of The University of Tokushima School of Medicine. A hundred percent of the students were interested in Oriental medicine ; 100% thought that Oriental medicine was worth learning ; 60% wanted to introduce Oriental medicine into their clinical practice in the future.

These results suggest that it is necessary to properly learn Oriental medicine from the basics during medical school. More research on Oriental medicine in terms of clinical and basic science is necessary, and the opportunity to exchange information about Oriental medical treatment should be included in post-graduate curriculum.

Key words : lecture of traditional Oriental medicine, medical students, curriculum